



古道が紡ぐ物語



二つの都を結ぶ古代官道・下ツ道②

～郡山下ツ道ジャンクション（大和郡山市八条町）から藤原宮跡（橿原市醍醐町）まで～

奈良盆地を南北に縦断する3本の古道の一つ、下ツ道。飛鳥時代に官道として整備されたと見られる下ツ道の沿道には、弥生時代の環濠集落跡である唐古・鍵遺跡もあり、かつてこの地に有力な勢力が存在していたことが推察できます。また今年4月24日には、橿原市など3市町村が文化庁に申請していた「日本国創成のとき—飛鳥を翔た女性たち—」が「日本遺産」として認定されました。今後の地域活性化に一層期待が高まる沿道を訪ねます。

古代から近代まで様々な表情を見せる下ツ道沿道

■いにしへの鑄造技術集団に思いを馳せる

下ツ道迂回路を通して西名阪自動車道をくぐると、郡山下ツ道ジャンクションのすぐ南に、菅田神社（大和郡山市八条町字一夜松）への参道が見える。菅田神社は鍛冶の神・天目一筒神を主祭神として祀る神社である。鍛冶の神が目一筒、すなわち隻眼であるというのは興味深い。一説に、鍛冶職人が片目で仕上がりを見る様子からとも、鉄の温度を調整するのに炉の中の炎を見続け失明することが多かったからとも言われる。

天理市と大和郡山市との境界沿いに下ツ道を南下し、近鉄二階堂駅を過ぎる。地名の由来となった二階堂地藏堂（天理市二階堂上ノ庄町）は、下ツ道と布留街道との交点にある。布留街道は、布留社との異称を持つ石上神宮の参道である。

初瀬川（大和川の上流）と布留川との合流点を通過し、田原本町に入ると、東に弥生時代の環濠

集落跡である唐古・鍵遺跡が見える。環濠内面積は42haという全国トップクラスの広大な遺跡で、弥生時代の有力な勢力の拠点であったと推定されている。同遺跡からは全国各地のヒスイや土器が出土し、全国と幅広く交易があったことが窺える。また集落跡からは銅鐸の鑄型が見つかり、高度な鑄造技術を持った職人集団の存在が推察される。

こうした中、田原本町は2017年度の完成を目指し「唐古・鍵遺跡史跡公園」を整備している。遺構展示館を設置するほか、当時の環濠や森を復元し「弥生の風景」をよみがえらせる予定である。

遺跡の南には、鏡作坐天照御魂神社（田原本町大字八尾）が鎮座する。その名の通り鏡の鑄造を生業とする氏族の氏神であろう。主祭神の天照彦火明命は太陽の光熱を表し、神武天皇以前にヤマトを統治した饒速日命と同一視される。

このように、下ツ道近辺には鑄造技術に縁の深いスポットが点在する。また、田原本町内に残る



二階堂地藏堂（天理市二階堂上ノ庄町）（左）



唐古池に復元された弥生時代の楼閣（田原本町大字唐古）（右）



鏡作坐天照御魂神社（田原本町大字八尾）（右）



中国風の山門が特徴的な秦楽寺（田原本町秦楽）（左）

小阪や今里、八尾といった地名が、金属加工技術で栄える東大阪の地名と一致することも興味深い。

■秦楽寺から新ノ口、八木札の辻へ

こうした田原本町の観光情報を発信しているのが、観光ステーション「磯城の里」である。近鉄田原本駅前に所在し、レンタサイクルの貸出も行うことで、付近の観光拠点となっている。

近鉄橿原線で田原本の一駅南、^{かさぬい}笠縫駅。駅名は付近の笠縫神社（田原本町秦^{はたのしょう}庄）に由来する。『日本書紀』には、第10代崇神天皇の折に、宮中で災厄が起きたことを機に、^{とよすきいりひめのみこと}豊鍬入姫命に命じて^{あまてらすおおみかみ}天照大神を八咫鏡に託し^{や た かがみ}笠縫邑に分祀したと記されており、笠縫神社はその比定地の一つである。

笠縫神社は^{じんらくじ}秦楽寺の境内にある。秦楽寺は渡来系氏族で聖徳太子の側近・^{はたのかわかつ}秦河勝が開いたとされ、中国風の山門が目を引く。

笠縫駅の次は^{に くち}新ノ口駅である。付近はかつて^の新口村と呼ばれ、^{ちかまつもん ぎ えもん}近松門左衛門の人形浄瑠璃脚本「^{めいと}冥途の飛脚」の舞台となった。飛脚問屋に養子に出された忠兵衛が、遊女・梅川の身請けのため、飛脚問屋の掟を破って「封印切り（顧客の金銭を横領すること）」に手を染める。追われる身となった忠兵衛は、梅川とともに故郷の新口村にたどり着くのである。この話は実話を脚色したもので、梅川と刑死した忠兵衛の供養碑が近くの善福寺（橿原市新口町）に残されている。

さらに下ると、八木札の辻に至る。日本最古の

官道とされる横大路（竹内街道）と下ツ道との交点であり、江戸時代には伊勢街道沿いの旅籠のまちとして賑わった。今は静かな住宅街だが、江戸時代の旅籠を改修した八木札の辻交流館（橿原市北八木町）は、往年の賑わいを今に伝えている（2013年6月号の本記事を参照）。

■藤原宮跡に持統天皇の面影をしのぶ

下ツ道は藤原京の西をかすめ、見瀬丸山古墳（橿原市見瀬町）で終端を迎えるため、おふさ観音（^{おうさ}同小房町）で東へ曲がると、中ツ道と下ツ道とのちょうど真ん中に藤原宮跡（同醍醐町）がある。

藤原京は女帝・持統天皇が亡き夫・天武天皇の遺志を継いで、日本で初めての本格的な都城として完成させた都である。藤原京造営・遷都を指示し、その中心・藤原宮において政務を執った持統天皇は、^{あす かきよみがはらりょう}飛鳥浄御原令編纂・施行という事績を残したほか、譲位後も年若い息子の文武天皇を支え、^{たいほうりつりょう}大宝律令の制定にも関わったとされる。

2015年4月24日、橿原市・高取町・明日香村の飛鳥地域3市町村が申請した「日本国創成のとき一飛鳥を翔た女性たち一」が、文化庁が初めて認定した「日本遺産」18件のうちのの一つに選ばれた。「日本史上、女性が最も力強く活躍した場所」というストーリーが評価されてのことであり、日本遺産の認定を機に、同地域の一層の活性化が期待される。（下ツ道編終わり）

（太田宜志）



観光ステーション磯城の里（田原本町）（右）



梅川・忠兵衛の供養碑が残る善福寺（橿原市新口町）（左）



下ツ道の南の終端・見瀬丸山古墳（橿原市見瀬町）（左）



藤原宮跡（橿原市醍醐町）（右）